



EM-507

EMERSON

エマーソン スピーディジャッキ2

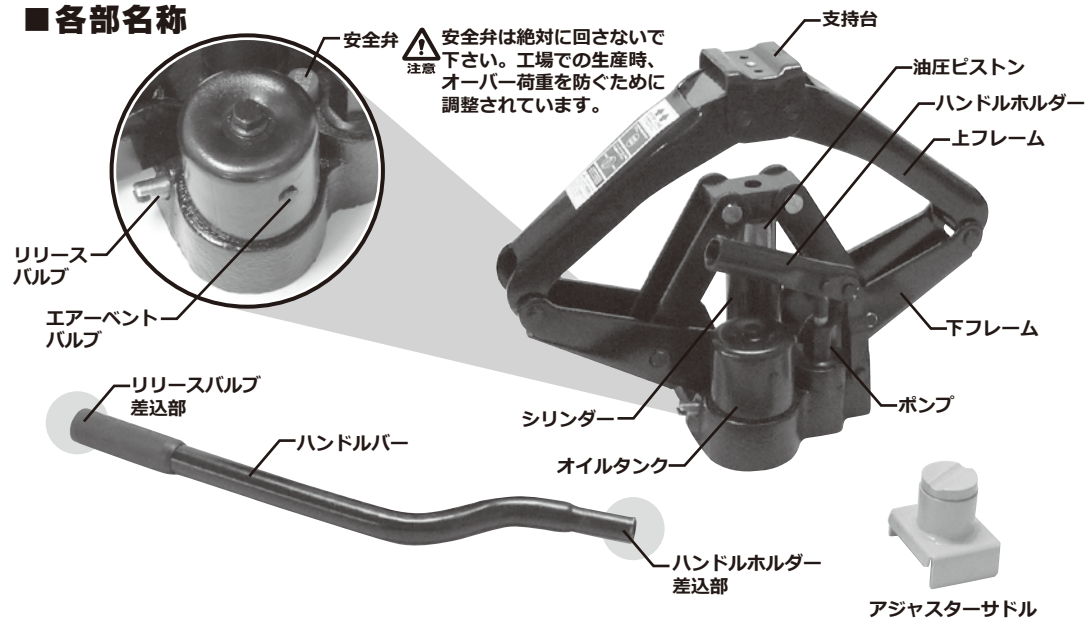
取扱説明書

この度は「エマーソン スピーディジャッキ2」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

本製品を正しく安全にご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。また、読み終わりましたもこの取扱説明書を大切に保管の上、必要の都度お読み返し下さい。

本製品は、車両重量4.0t未満のお車で使用することが出来ます。

■各部名称



仕 様	
品番	EM-507
商品名	エマーソン スピーディジャッキ2
最低位	145mm
最高位	445mm*アジャスターサドル使用時
最大使用荷重	19.6kN
最大揚程質量	2.0t(※車両重量ではありません)
重量	本体重量9.5kg/総重量10.9kg
本体サイズ	幅146×高さ145×長さ415mm

※改良のため、予告なく仕様及び外観の変更をすることがあります。



4 975960 116961

この製品は日本国内で企画・設計し中国で生産しています。

注意 一部車種によりジャッキの最高位に達してもタイヤが浮かない場合があります。

■ 安全上のご注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

- 本製品を正しく安全にご使用頂くため、ご使用前にこの「安全上のご注意」を必ずお読みになり、よく理解したうえで正しくお使い下さい。
- この取扱説明書は大切に保管のうえ、ご使用中に分からなくなった時など、必要な都度、お読み返し下さい。また、他の人が使用する場合も同様です。
- ここに示す注意事項は、本製品を正しく、安全にご使用頂くためのもので、本製品を使用する方や、周囲への危害や損害などを未然に防止するものです。

■ 使用上の注意と警告マーク

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示します。

■ ご使用前の注意と警告

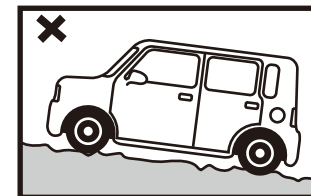
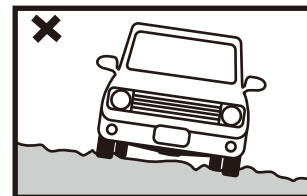
⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"> ●本製品は、自動車をジャッキアップ・ダウンするためにご使用頂くもので、ジャッキアップ状態を維持するためのものではありません。また、作業中、車両の下に頭を入れたり、体ごと入っての作業はおやめ下さい。 ●本来の目的以外で使用しないで下さい。 ●投げると落すと叩くなどの衝撃を与えないで下さい。 ●本製品の分解や改造をしないで下さい。本来の性能を発揮できないばかりか、ジャッキが破損し、危険な場合があります。 ●本製品は、気温-20℃~60℃の範囲内でご使用下さい。 ●本製品は19.6kN(2.0tの質量)以内でご使用下さい。使用限度荷重を超えて使用すると、ジャッキの破損やフレームが下降する恐れがあります。 ●必ず各車両指定のジャッキアップポイントでご使用下さい。分からない場合は、自動車の販売店やガソリンスタンドなどで確認して下さい。 ●お車から人や物を降ろしてからご使用下さい。 ●作業の前に、車両の周囲に人や子供、他の車両、物などが無いことを確認して下さい。 ●ジャッキ本体を持ち運ぶ際は、ハンドルホルダーを持って下さい。フレームを持つと手や指を挟む恐れがあります。 ●ご使用前に、各部品に異常がないか確認して下さい。※フレームのピン、ポンプ周りのピン、スナッピングの外れにもご注意下さい。 ●ご使用前に無負荷の状態でごジャッキアップをし本製品に異常がないか確認して下さい。作動油の漏れ、フレームの曲がり、著しいガタ付き、異音などの異常がある場合は使用を中止し、販売店もしくは本書記載の製造元へご連絡下さい。
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●必ずお車の車高をご確認下さい。 ●安全弁は絶対に回さないで下さい。工場での生産時に、オーバー荷重を防ぐために調整されています。 ●ジャッキのハンドルバーや支持台は、必ず付属のもの、または専用のものをご使用下さい。それ以外のものはご使用にならないで下さい。

■ ご使用方法と使用上の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

- 本製品は、水平で堅い地面または堅い板を敷いた上で使用して下さい。不整地や不安定な傾斜地で使用すると、ジャッキが外れたり、破損する可能性があります。(凍結路面の場合は、ジャッキの下に布地を敷くと滑り防止になります。)



- ジャッキがお車から外れたり、破損する恐れがあるので2つ以上のジャッキを同時に掛けないで下さい。
- 意図せぬお車の移動により、ジャッキがお車から外れたり、破損することを防止するため、必ずエンジンを切り、パーキングブレーキをかけたうえでギアを「ロー」に(AT車は「P」)に入れて下さい。また、お車が動かないよう輪止めをして下さい。
- ジャッキアップする際、必ずジャッキの支持台の中心にジャッキポイントをあわせて下さい。また、作業中にズレる可能性があります。安全のため、時々ご確認下さい。
- 必ずジャッキスタンド(馬ジャッキ)をご使用下さい。
- リリースバルブが確実に締まっていることをご確認下さい。
- ジャッキのハンドルバーは、上げる時又は下ろす時以外は外して下さい。
- ジャッキアップしたままの状態、車両から離れないで下さい。
- ジャッキダウンの際は、車両の下に人や物などが無いこと、また、作業する人や他の人の体が車両に当たらないよう、充分注意して下さい。
- ジャッキダウンの際は、必ず、本製品付属のハンドルバーで、リリースバルブをゆっくりと反時計回りに回して下さい(1/4回転)。
- ジャッキダウンの際は、絶対に手で縮めないで下さい。指を挟む恐れがあり大変危険です。付属のハンドルバーをご使用になるか、足でフレームを踏んで縮めて下さい。

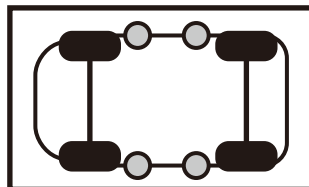
⚠ 警告

⚠ 注意

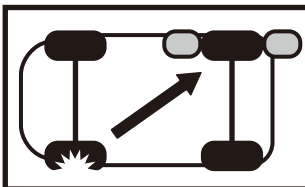
- ハンドルバーが確実に接続・固定されていることをご確認下さい。操作中にハンドルバーが外れると思わぬケガをする場合があります。
- ハンドルバーをしっかりと握って操作して下さい。手が滑ると思わぬケガをする場合があります。
- ストップライン以上にジャッキアップしないで下さい。
- ジャッキを下ろす際には、ジャッキのハンドル以外の場所に触れないで下さい。
- 安全弁は絶対に回さないで下さい。
- リリースバルブを3回転以上回しますとオイル漏れや故障の原因となります。緩めすぎに注意して下さい。

<ジャッキアップの前に>

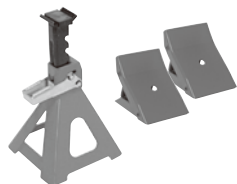
- 必ず各車両指定のジャッキアップポイントでご使用下さい。分からない場合は、自動車の販売店や取扱説明書などで確認して下さい。



- 輪止めを、ジャッキアップする反対(対角)側のタイヤに掛けて下さい(前後2個)。

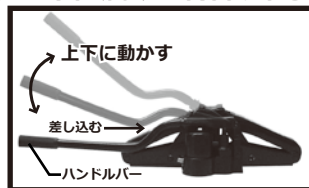


- 本製品は、ジャッキアップするためにご使用頂くもので、ジャッキアップ状態を維持するためのものではありません。作業の際は、ジャッキスタンド(馬)を必ずご使用下さい。



<ジャッキアップ>

- ① ハンドルバーのリリースバルブ差込部をリリースバルブに差込み、時計回りに回してリリースバルブを確実に締めて下さい。締め付けが不十分な場合、ジャッキアップできない場合があります。
- ② ハンドルバーをハンドルホルダーに差込み、上下に動かしますと、アーム部分が上がります。支持台がジャッキポイント近くまで上昇したら、一時中断し、支持台の中心をジャッキポイントにあわせて下さい。
- ③ 支持台の中心にジャッキポイントがかかっている事を確認した後、再度ジャッキアップを続けて下さい。支持台が上がり、車両が上昇します。
- ④ 必要以上にジャッキアップしないで下さい。故障の原因となります。

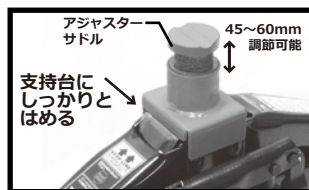


※赤いストップラインが見えたらジャッキアップを止めて下さい。

<アジャスターサドル>

本製品は、本体のみの最高位は385mmです。それ以上の高さを上げる必要がある場合は、付属のアジャスターサドルをご使用下さい。アジャスターサドルは、45mm～60mmの調整が可能です。

ご使用の際は、本体の支持台にアジャスターサドルをしっかりとめてからジャッキアップして下さい。ジャッキアップ中にズレが発生しないか時々ご確認下さい。



<ジャッキダウン>

- ① ハンドルバーのリリースバルブ差込部をリリースバルブに差込み、ゆっくりと反時計回りに回してリリースバルブを緩めて下さい(1/4回転)。車両が下降します。
※1/4回転以上回すと車が急激に下降し大変危険です。
- ② 荷重が少なくなると一番下まで下がりにません。リリースバルブをさらに2回転ほど緩め、フレームを足で踏んで締めて下さい。
- ③ 錆や劣化を防止するため、収納・保管の際は、支持台を一番下まで下げ、ハンドルバーでリリースバルブを時計回りにしっかりと締め、雨や雪の当たる場所や湿気が多い場所を避けて保管して下さい。



■ご使用後の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●ご使用後は、支持台を一番低い位置に下げ、リリースバルブをしっかりと締めて下さい。油圧ピストンがシリンダー内に収納され、サビやキズからジャッキを守ります。 ●保管の際は、雨や雪の当たる場所や湿気が多い場所は避けて下さい。錆や劣化の原因となります。 ●移動や保管の際は、必ず本体の底面を設置面にして下さい。縦置きや横置きの状態にしますと、オイル漏れや故障の原因となります。
------	---

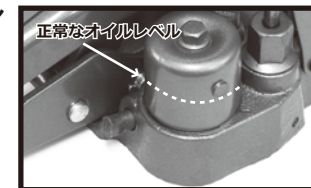
■メンテナンス

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●リリースバルブを3回転以上回しますとオイル漏れや故障の原因となります。緩めすぎに注意して下さい。 ●作動油が少なくなった場合は指定の作動油を補充して下さい。(ブレーキオイル、アルコール、グリセリン、洗浄用モーターオイルなど、指定以外のもはご使用になれません。) ●補充の際、ゴミや、ホコリなどの異物が入らないようにして下さい。 ●作動油は劣化します。3年毎に交換をして下さい(P5参照)。 ●作業を始める前に、必ず市販の廃油缶又は廃油箱・廃油剤等を用意して下さい。 ●作動油は石油系の物質です。補充や交換の際には通気性の良い場所で、引火しないよう火気から十分離れた場所で行って下さい。
------	--

<オイルの補充>

- ① 支持台を一番下まで下げ、水平な地面の上でエアベントバルブを指で外してオイルレベルを確認して下さい。
※給油口の下端までが正常なオイルレベルです。



② オイルが不足しているようであれば、給油口から「エマーソン純正オイル」、または同等の油圧用オイル (ISOVG 10~15) を少量ずつ、給油口の下端まで注入して下さい。

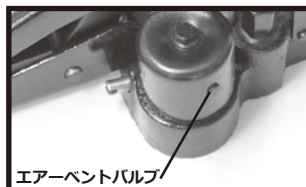
③ オイルの補充が完了したら、エアイベントバルブを、元の状態に戻して下さい。

④ オイルの補充後、エア抜きを行って下さい。
※下記「エア抜き」参照



＜オイルの交換＞

① 支持台を一番下まで下げ、水平な地面の上でエアイベントバルブを指で外して下さい。
※給油口からオイルが漏れる事がありますので周囲や衣服などの汚れにご注意下さい。



② 給油口からオイルを容器に排出して下さい。このとき、シリンダーが水平になるようにして全てのオイルを出して下さい。



③ 「オイルの補充」の手順③～④に従って新しい油圧用オイルを注入して下さい。

＜エア抜き＞

① ハンドルバーをリリースバルブに差込み、反時計回りに回してリリースバルブをゆるめて下さい。

② ジャッキ本体の上部を掴み、約1/2ストローク(130mm程度)まで引き上げて下さい。



③ ジャッキを逆さまにし地面などに押しあてて縮めて下さい。
※指を挟まないようご注意ください。



④ ジャッキを正位置に戻し、エアイベントバルブの上部を下側に押し下げて隙間を作り内部の空気を抜いて下さい。
※給油口からオイルが漏れる事がありますので周囲や衣服などの汚れにご注意下さい。



■万が一、事故や損害が発生した場合について

万が一、本製品の欠陥が原因となり事故や損害が発生した場合は、直ちに発売元までご連絡下さい。また、原因の究明にあたって、下記のような必要最小限の情報のご提供や、現品の回収をお願いする事があります。調査前に処分されないようお願い致します。

- 事故の詳細
- 使用状況
- 現品回収
- 損害のあった物の写真
- 医療機関の診断書
- その他、事故や損害の状況に応じて必要な情報など

■故障・異常の見分け方と処置方法

万が一、不具合が発生した場合は、下記にもとづいて点検し、処置に困るような時や、原因のはっきりしない時、処置をしても正常に作動しない時は、お買い求めの販売店または、発売元にご連絡下さい。

状況	原因と対策
上がらない	① リリースバルブがしっかり締まっていない。 →リリースバルブを時計回りに回して、しっかりと締めて下さい。 ② 油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。 ③ オイルレベルが低すぎる。 →オイルを補充して下さい。
自然に下がる	① リリースバルブがしっかり締まっていない。 →リリースバルブを時計回りに回して、しっかりと締めて下さい。 ② 油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
最高位まで上がらない	① オイルレベルが低すぎる。 →オイルを補充して下さい。 ② 油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
最低位まで下がらない	① 油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
スムーズに上がらない	① 油圧系統にエアが混入している。 →エア抜きを行って下さい。